

II. 厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
分担研究報告書

新規モデル地域の抽出状況（JACR へのアンケート調査まとめ）

研究分担者

田中里奈 弘前大学大学院医学研究科・助教  
雑賀公美子 弘前大学・大学院医学研究科・客員研究員  
松田智大 国立がん研究センター社会と健康研究センター国際連携研究部・部長  
齋藤 博 青森県立中央病院・医療顧問  
松坂方士 弘前大学医学部附属病院・准教授

研究要旨

これまで複数の自治体でがん検診の精度管理を目的にがん登録データが利用されてきたが、実際にデータ照合を実施して指標を算出し、精度管理に至ったのは5県のみだった。そのうち、厚生労働省研究班等の支援を受けずに事業を遂行したのは1県のみであり、データ照合によるがん検診の精度管理事業にはかなりの専門知識が必要であることが明らかになった。これを踏まえて、今後、当該事業を全国に普及させるためには、標準的な手順の整備や算出する精度管理指標の例示、指標算出のための各項目の定義など、専門知識が必要な部分を解説したマニュアル的な資料を作成する必要があると考えられた。また、既にごがん登録情報やがん検診情報を利用した経験のある自治体では、当該事業を新規に開始する際のハードルが低い可能性があり、今後も継続的に働きかける必要がある。

A. 研究目的

- (1) これまでにがん登録情報とがん検診情報を照合したデータをごがん検診の精度管理に利用した経験がある自治体を抽出する。そのような自治体に追加調査を実施し、具体的な内容を聞き取る。得られた結果を整理し、今後の精度管理の参考にする。
- (2) 過去にごがん登録情報とがん検診情報の照合を実施した経験のある自治体から、新たに照合データをごがん検診の精度管理に利用する自治体を抽出する。

B. 研究方法

- (1) これまでにデータ照合の経験がある自治体の抽出

がん検診情報は市区町村が管理しており、がん登録情報は都道府県が管理している。ただ、デー

タ照合作業はほとんどの場合において都道府県がん登録データベース上で実施され、どちらの情報も必ず都道府県がん登録室を経由する。そのため、漏れのない調査となるように都道府県がん登録室を対象にアンケートを実施した。調査にあたっては、全ての都道府県がん登録室が加盟している日本がん登録協議会（JACR）にアンケート業務を委託した。（アンケート内容は、資料1参照）がん登録等の推進に関する法律は2013年12月に成立し、2014年度以降に各自治体でのがん登録情報の利用が活発化したことから、本調査の対象は2015年以降の事業とした。なお、自治体名を含むアンケート結果を研究班の報告書として公表することは、事前に対象者（各自治体のアンケートへの回答者）に通知した。

- (2) 新たに事業展開を希望する自治体の抽出

(1)でデータ照合の経験があると回答した自治体に個別に連絡を取り、新たに照合データを利用したがん検診の精度管理事業の展開を希望する自治体を抽出した。

(倫理面への配慮)

本研究では人体から採取された試料や個人情報に関連する情報等はいずれも、公表されている資料のみで実施するため、倫理上の問題は発生しない。

## C. 研究結果

(1) これまでにデータ照合の経験がある自治体の抽出

① がん検診の精度管理を目的としたがん登録情報の提供の有無

がん検診の精度管理を目的としたがん登録情報の提供の有無についての回答結果を表1に示した。

2015年以降、がん検診の精度管理を目的として10都府県(57市区町村)でがん登録データの提供が実施されていたが、そのうちでがん登録情報とがん検診情報を照合した事業は8都府県(52市区町村)だった。(ただし、青森県の3市1町では照合しないデータも提供されている。)また、データ照合によって指標を算出し、がん検診の精度管理に利用したのは、青森県(20市町村)、栃木県(5市町)、福井県(17市町)、和歌山県(1市)、島根県(2市2町)だった。このうち、青森県(20市町村)、栃木県(5市町)、和歌山県(1市)、島根県(2市2町)は厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究)「都道府県がん登録の全国集計データと診療情報等との併用・突合によるがん統計整備及び活用促進の研究」班(研究代表者・松田智大)の支援によって実施された事業だった。なお、青森県、和歌山県、島根県は本研究班に参加して、引き続きデータ照合によるがん検診の精度管理を実施している。

② がん登録室へのデータ提供に関する相談

データ提供にまでは至らなかったものの、都道府県がん登録室にデータ提供に関する相談があった自治体は、東京都(港区、文京区、葛飾区)、石川県(金沢市)、愛知県(半田市、名古屋市)だった。

(2) 新たに事業展開を希望する自治体の抽出

本研究班の協力の下でデータ照合によるがん検診の精度管理を実施する3県(25市町村)以外の自治体に対して、本研究班の趣旨とがん検診の精度管理の重要性を説明し、新規事業としてのデータ照合によるがん検診の精度管理を提案した。そのうち、秋田県男鹿市で令和4年度に本研究班の協力の下で新規に事業を開始することとなった。このことについては秋田県がん登録室も把握しており、事務手続き等に関する協力を内諾いただいている。

## D. 考察

本研究班に参加している先行3県(25市町村)と栃木県(5市町)は、本研究班が発足する前に他の研究班の支援の下でデータ照合によるがん検診の精度管理を実施しており、研究班等の支援なく独自で事業を展開していたのは福井県だけだった。このことから、当該事業は研究班などの専門家の支援なしではかなり難易度が高く、困難なものであると考えられた。今後、当該事業を普及させるためには、標準的な手順の整備や算出する精度管理指標の例示、指標算出のための各項目の定義など、専門知識が必要な部分を解説したマニュアル的な資料を作成する必要があると考えられた。また、そのような資料は、今後、当該事業を全国的に標準化する際にも十分に役立つものと期待される。

がん登録情報とがん検診情報の照合作業を普及させる際に、これまで最も懸念されていたのは、個人情報の保護との関連で、受診者の同意を得ずにデータ提供やデータ照合することへの忌避だ

った。しかし、指標の算出や精度管理までには至っていないものの、これまで複数の自治体でがん検診のためにデータ提供やデータ照合が実施されてきたことが明らかになり、行政のがん登録情報の利用に対する理解、あるいはがん検診の精度管理に対する認識が拡大しているものと考えられた。このことは今後の研究班活動にとって極めて重要であり、先行3県の他に新規に当該事業を開始する自治体での事例を示すことによってさらにがん登録情報やがん検診情報の利用が促進する可能性がある。

また、既にデータを利用したことがある自治体と、データ利用には至らなかったものの都道府県がん登録室に相談した経験がある自治体に新規事業としてのデータ照合によるがん検診の精度管理を提案したところ、秋田県男鹿市が令和4年度からデータ照合によるがん検診の精度管理事業を開始することになった。既にごがん登録情報とがん検診情報を利用した経験がある自治体は、個人情報の保護という視点をクリアした後の視点からデータ照合事業について考えることが可能になり、その他の自治体よりも当該事業への参加のハードルが低いのかもしれない。今後も過去にデータ利用した経験のある自治体に継続的に働きかけることで新規に参加する自治体を増加させることができると考えられた。また、そのようなデータ利用経験のない自治体には、個人情報を保護しながら当該事業の実施が可能であることを、本研究班での事例を紹介しながら丁寧に説明する必要があると考えられた。

## E. 結論

これまで複数の自治体でがん検診の精度管理を目的にごがん登録データが利用されてきたが、実際にデータ照合を実施して指標を算出し、精度管理に至ったのは5県のみだった。そのうち、厚生労働省研究班等の支援を受けずに事業を遂行したのは1県のみであり、データ照合によるがん検診の精度管理事業にはかなりの専門知識が必要

であることが明らかになった。これを踏まえて、今後、当該事業を全国に普及させるためには、標準的な手順の整備や算出する精度管理指標の例示、指標算出のための各項目の定義など、専門知識が必要な部分を解説したマニュアル的な資料を作成する必要があると考えられた。また、既にごがん登録情報やがん検診情報を利用した経験のある自治体では、当該事業を新規に開始する際のハードルが低い可能性があり、今後も継続的に働きかける必要がある。

## F. 健康危険情報

本研究では人体から採取された試料や個人情報に関連する情報等は用いない。

## G. 研究発表

- 1) 中田佳世, 松田智大, and 宮代勲, 小児がんの記述疫学. 日本小児血液・がん学会雑誌, 2021. 57(5): p. 360-365.
- 2) 松田智大, 伊藤秀美, 杉山裕美, 大木いずみ, 中田佳世, 西野善一, 加茂憲一, 伊藤ゆり, 柴田亜希子, 片野田耕太, 雑賀公美子, 堀芽久美, 宮代勲, 澤田典絵, and 永岩麻衣子, 都道府県がん登録の全国集計データと診療情報等との併用・突合によるがん統計整備及び活用促進の研究. 医療情報学, 2021. 41(2): p. 86-87.
- 3) Stacchiotti, S., A.M. Frezza, J.Y. Blay, E.H. Baldini, S. Bonvalot, J. Bovee, D. Callegaro, P.G. Casali, R.C. Chiang, G.D. Demetri, E.G. Demicco, J. Desai, M. Eriksson, H. Gelderblom, S. George, M.M. Gounder, A. Gronchi, A. Gupta, R.L. Haas, A. Hayes-Jardon, P. Hohenberger, K.B. Jones, R.L. Jones, B. Kasper, A. Kawai, D.G. Kirsch, E.S. Kleinerman, A. Le Cesne, J. Lim, M.D. Chirlaque Lopez, R. Maestro, R. Marcos-Gragera, J. Martin Broto, Matsuda, T., O. Mir, S.R. Patel, C.P. Raut, A.R.A. Razak, D.R.

- Reed, P. Rutkowski, R.G. Sanfilippo, M. Sbaraglia, I.M. Schaefer, D.C. Strauss, K. Sundby Hall, W.D. Tap, D.M. Thomas, W.T.A. van der Graaf, W.J. van Houdt, O. Visser, M. von Mehren, A.J. Wagner, B.A. Wilky, Y.J. Won, C.D.M. Fletcher, A.P. Dei Tos, and A. Trama, Ultra-rare sarcomas: A consensus paper from the Connective Tissue Oncology Society community of experts on the incidence threshold and the list of entities. *Cancer*, 2021.
- 4) Pilleron, S., N. Alqurini, J. Ferlay, K.R. Haase, M. Hannan, M. Janssen-Heijnen, K. Kantilal, K. Katanoda, C. Kenis, G. Lu-Yao, Matsuda, T., E. Navarrete, N. Nikita, M. Puts, F.J. Stroschein, and E.J.A. Morris, International trends in cancer incidence in middle-aged and older adults in 44 countries. *J Geriatr Oncol*, 2021.
  - 5) Niino, M. and Matsuda, T., Age-specific skin cancer incidence rate in the world. *Jpn J Clin Oncol*, 2021. 51(5): p. 848-849.
  - 6) Matsuda, T., K. Matsuo, N. Sawada, and M. Inoue, International strategy in cancer epidemiology: Japan's involvement in global projects and future role. *Glob Health Med*, 2021. 3(4): p. 187-195.
  - 7) Matsuda, T. and H. Charvat, Age-specific testis cancer incidence rate in the world. *Jpn J Clin Oncol*, 2021. 51(6): p. 1019-1020.
  - 8) Matsuda, T., Moving from collective to distributed epidemiological cancer research. *Lancet Respir Med*, 2021. 9(9): p. 945-947.
  - 9) Matsuda, T., Lecture No. 3 Current status and future outlook for collection of cancer-related data in Asia. *Jpn J Clin Oncol*, 2021. 51(Supplement\_1): p. i14-i16.
  - 10) Lombe, D., R. Sullivan, C. Caduff, Z. Ali, N. Bhoo-Pathy, J. Cleary, M. Jalink, Matsuda, T., D. Mukherji, D. Sarfati, V. Vanderpuye, A. Yusuf, and C. Booth, Silver linings: a qualitative study of desirable changes to cancer care during the COVID-19 pandemic. *Ecancermedalscience*, 2021. 15: p. 1202.
  - 11) Katanoda, K., M. Hori, E. Saito, A. Shibata, Y. Ito, T. Minami, S. Ikeda, T. Suzuki, and Matsuda, T., Updated Trends in Cancer in Japan: Incidence in 1985-2015 and Mortality in 1958-2018-A Sign of Decrease in Cancer Incidence. *J Epidemiol*, 2021. 31(7): p. 426-450.
  - 12) Harashima, S., M. Fujimori, T. Akechi, Matsuda, T., Saika K., T. Hasegawa, K. Inoue, K. Yoshiuchi, I. Miyashiro, Y. Uchitomi, and J.M. Y, Death by suicide, other externally caused injuries and cardiovascular diseases within 6 months of cancer diagnosis (J-SUPPORT 1902). *Jpn J Clin Oncol*, 2021. 51(5): p. 744-752.
  - 13) Gatellier, L., A. Shankar, L.K.M. Dewi, Q.M. Hussain, T. Dendup Wangdi, D.B. Sukumaran, N.K. Sari, S. Tavakkoli Shiraji, M. Biglari, M. Tahmasebi, S. Iwata, T. Suzuki, S.K. Myung, J.Y. Chun, J.S. Han, F.N. Lau, S. Yusak, L. Bayarsaikhan, K.T. Mu, K.K. Pradhananga, A. Yusuf, C.H. Lin, R.C. Chiang, S. Sangrajan, Q.T. Nguyen, G.N. Huong, A.N. Soe, D.N. Sharma, M. Sengar, C.S. Pramesh, Matsuda, T., A.M. Jarrahi, and W. Hwang, The Impact of COVID-19 on Cancer Care in the Post Pandemic World: Five Major Lessons Learnt from Challenges and Countermeasures of Major Asian Cancer Centres. *Asian Pac J Cancer Prev*, 2021. 22(3): p. 681-690.
  - 14) Gatellier, L. and Matsuda, T., Age-specific incidence rate of brain and nervous system malignancy in the world. *Jpn J Clin Oncol*,

- 2021.
- 15) 齋藤 博. 便潜血検査による大腸がんスクリーニングの有効性のエビデンス *INTESTINE* 25:14-20,2021 日本メディカルセンター
  - 16) 齋藤 博. がん検診の不利益の最小化と精度管理の重要性 *臨床消化器内科* 36:840-844. 2021 日本メディカルセンター
  - 17) Kono K, Morisada T, Saika K, Saito H et al. The first round results of a population-based cohort study of HPV testing in Japanese cervical cancer screening: baseline characteristics, screening results, and referral rate. *J Gynecol Oncol.* 2021 <https://doi.org/10.3802/jgo.2021.32.e29>
  - 18) 吉田茂昭, 松坂方士. 【大腸癌のスクリーニングとサーベイランスの標準化に向けて-新しい知見から】スクリーニング 大腸内視鏡を用いた大腸癌スクリーニングの試み a.青森プロジェクト(Project A) 立ち上げの経緯とその論点. *Intestine* 2021. 25(1):43-46.
  - 19) 花畑憲洋, 松田尚久, 齋藤博, 澤谷学, 三上達也, 齋藤豊, 関口正宇, 松坂方士, 吉田茂昭, 福田眞作. 【大腸癌のスクリーニングとサーベイランスの標準化に向けて-新しい知見から】スクリーニング 大腸内視鏡を用いた大腸癌スクリーニングの試み b.青森プロジェクト(Project A) 進捗と将来展望. *Intestine* 2021. 25(1): 47-51.
  - 20) Saya Iida, Hiroko Seino, Fumiko Nagahata, Soichiro Tatsuo, Sho Maruyama, Seiko Kon, Hiroto Takada, Masashi Matsuzaka, Koichiro Sugimoto, Shingo Kakeda. Cerebral ventricularomegaly in myotonic dystrophy type 1: normal pressure hydrocephalus-like appearances on magnetic resonance imaging: *BMC Neurosci.* 2021;22(1):62.
  - 21) Hironobu Hata, Shinya Takada, Jun Sato, Kazuhito Yoshikawa, Kenji Imamachi, Minako Edo, Tamotsu Sagawa, Koshi Fujikawa, Michihiro Ueda, Masashi Matsuzaka, Yoshimasa Kitagawa. Analgesic effects of indomethacin spray on drug-induced oral mucositis pain in patients with cancer: A single-arm cross-sectional study. *Spec Care Dentist.* 2021;41(4):498-504.
  - 22) Kenichiro Asano, Toshio Fumoto, Masashi Matsuzaka, Seiko Hasegawa, Naoya Suzuki, Kenichi Akasaka, Kosuke Katayama, Akihisa Kamataki, Akira Kurose, Hiroki Ohkuma. Combination chemoradiotherapy with temozolomide, vincristine, and interferon- $\beta$  might improve outcomes regardless of O6-methylguanine-DNA-methyltransferase (MGMT) promoter methylation status in newly glioblastoma. *BMC Cancer.* 2021;21(1):867.
  - 23) Soichiro Tatsuo, Fumiyasu Tsushima, Shinya Kakehata, Hiromasa Fujita, Sho Maruyama, Saya Iida, Sayuri Tatsuo, Naoya Kumagai, Masashi Matsuzaka, Akira Kurose, Shingo Kakeda. Effectiveness of Cytological Diagnosis with Outer Cannula Washing Solution for Computed Tomography-Guided Needle Biopsy. *Acad Radiol.* 2022;29(3):388-394.
  - 24) Kenichiro Asano, Seiko Hasegawa, Masashi Matsuzaka, Hiroki Ohkuma. Brain tumor-related epilepsy and risk factors for metastatic brain tumors: analysis of 601 consecutive cases providing real-world data. *J Neurosurg.* 2021;136(1):76-87.
  - 25) Kenichiro Asano, Yoji Yamashita, Takahiro Ono, Manabu Natsumeda, Takaaki Beppu, Kenichiro Matsuda, Masahiro Ichikawa, Masayuki Kanamori, Masashi Matsuzaka, Akira Kurose, Kiyoshi Saito, Yukihiko Sonoda, Kuniaki Ogasawara, Yukihiko Fujii, Hiroaki Shimizu, Hiroki Ohkuma, Chifumi Kitanaka, Takamasa Kayama, Teiji Tominaga. The

Real-World status and risk factors for a poor prognosis in elderly patients with primary central nervous system malignant lymphoma as: a multicenter, retrospective cohort study of the Tohoku Brain Tumor Study Group. *Int J Clin Oncol.* 2022;27(1):77-94.

- 26) Taiichi Wakiya, Keinosuke Ishido, Norihisa Kimura, Hayato Nagase, Shunsuke Kubota, Hiroaki Fujita, Yusuke Hagiwara, Taishu Kanda, Masashi Matsuzaka, Yoshihiro Sasaki, Kenichi Hakamada. Prediction of massive bleeding in pancreatic surgery based on preoperative patient characteristics using a decision tree. *PLoS One.* 2021;16(11):e0259682.
- 27) Ayaka Fujita, Masashi Matsuzaka, Norifumi Metoki, Joji Hagii, Hiroshi Shiroto, Manabu Iwata, Rina Tanaka, Eiichi Tsuda. Clinical Outcomes and Medical Costs of Hydration Therapy with Hydroxyethyl Starch (130/0.4) or Acute Single Infarction. *J Stroke Cerebrovasc Dis.* 2021;30(5):105705.
- 28) Kenichiro Asano, Yoji Yamashita, Takahiro Ono, Manabu Natsumeda, Takaaki Beppu, Kenichiro Matsuda, Masahiro Ichikawa, Masayuki Kanamori, Masashi Matsuzaka, Akira Kurose, Toshio Fumoto, Kiyoshi Saito, Yukihiko Sonoda, Kuniaki Ogasawara, Yukihiko Fujii, Hiroaki Shimizu, Hiroki Ohkuma, Chifumi Kitanaka, Takamasa Kayama, Teiji Tominaga. Clinicopathological risk factors for a poor prognosis of primary central nervous system lymphoma in elderly patients in the Tohoku and Niigata area: a multicenter, retrospective, cohort study of the Tohoku Brain Tumor Study Group. *Brain Tumor Pathol.* 2022. Online ahead of print.

### 3. 学会発表

- 1) Matsuda, T. Cancer Research Collaboration in Asia: Establishing clinical trials. in *Interenational Conference on Healthcare Service Management.* 2021. Kyoto.
- 2) Matsuda, T. 8 闘う (Fighting) コロナ禍のがん医療② ～コロナ禍をがん医療はどう乗り切るのか～ 「国立がん研究センターにおける新型コロナウイルス感染拡大とがん医療・研究」. in *World Cancer Day 2021.* 2021.
- 3) 斎藤 博 甲状腺がん検診は行うべきではない第 46 回日本乳癌甲状腺超音波医学会ワークショップ1 口演 東京(オンライン) 2021.5.15
- 4) Kono K, Morisada T, Saika K, Saito H et al. The first round results of a population-based cohort study of HPV testing in Japanese cervical cancer screening: baseline characteristics, screening results, and referral rate. *J Gynecol Oncol.* 2021 <https://doi.org/10.3802/jgo.2021.32.e29>
- 5) Kono K, Morisada T, Saika K, Aoki ES, Miyagi E, Ito K, Takahashi H, Nakayama T, Saito H, Aoki D. The first-round results of a population-based cohort study of HPV testing in Japanese cervical cancer screening: baseline characteristics, screening results, and referral rate. *J Gynecol Oncol.* 2021; 32: e29. doi: 10.3802/jgo.2021.32.e29.
- 6) 齊藤英子、雑賀公美子、森定 徹、宮城悦子、藤井多久磨、高橋宏和、八重樫伸生、戸澤晃子、中山富雄、青木大輔. HPV 検査単独法を念頭においた場合に実施すべき子宮頸がん検診体制について. *日本がん検診・診断学会雑誌* 29(3) : 185-192, 2022.

### H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

## 資料1 全国の都道府県、がん登録室に実施したアンケート

令和3年11月1日

都道府県 全国がん登録担当部署 } 御中  
全国がん登録 都道府県がん登録室 }

弘前大学医学部附属病院医療情報部・准教授  
認定 NPO 法人日本がん登録協議会・理事  
(がん対策推進総合研究事業「がん登録を利用したがん検診の精度管理方法の検討のための研究」班 研究代表者)  
松坂方士

がん検診の精度管理を目的としたがん登録データ利用等に関するアンケートのご依頼

平素よりがん登録事業の推進に御協力いただきまして、心から御礼申し上げます。

さて、全国がん登録の根拠である「がん登録等の推進に関する法律」には、第四十六条で行政の全国がん登録データの活用が規定されています。また、がん検診は健康増進法第十九条の二に基づいて市町村が実施する事業ですが、有効な事業とするためには平成20年3月「今後のわが国におけるがん検診事業評価の在り方について」(厚生労働省老健局長通知)に示されているように、有効な事業とするためには精度管理が必要です。

がん検診事業の精度管理評価にがん登録データを利用することは国際的には主流であり、がん検診によってがん死亡率低下を図るには欠かすことのできない重要な取り組みです。わが国ではこれまで一部の自治体で実施されており、検診機関が研究目的で実施した事例もあります。平成28年に「がん登録等の推進に関する法律」が施行され、都道府県や市町村によるがん登録データの利用が積極的に求められています。今年度、厚生労働省・がん対策推進総合研究事業「がん登録を利用したがん検診の精度管理方法の検討のための研究」班が発足しました。この研究班の活動内容には、全国でこれまでに検診事業評価のためにがん登録データがどの程度利用されたかを把握し、その取り組み事例を公表することで全国での実施を促進することも含んでいます。

日本がん登録協議会にはすべての都道府県が入会しているため、全国の実施状況を把握するには同協議会を通じて御照会申し上げるのが最も遺漏がない手段です。そのため、別紙のようにアンケートを御願いますので、必要に応じて都道府県がん登録室とご相談の上、同協議会事務局まで御回答をいただきたく存じます。なお、収集したがん登録データ利用申請元に対して研究班から直接ご連絡等させていただくことがありますことを申し添えます。

お忙しい中申し訳ありませんが、令和3年11月30日までにご回答いただけますようお願いいたします。

【担当】 弘前大学医学部附属病院医療情報部  
松坂方士  
〒036-8563 青森県弘前市本町53  
E-mail: m-matt@hirosaki-u.ac.jp



がん検診の精度管理を目的としたがん登録情報利用等に関するアンケート

このアンケートでは都道府県を対象に、これまで市町村が実施するがん検診の精度管理等を目的としたがん登録情報の利用についての申請または提供状況をお伺いします。

回答方法

回答を記入し、添付の上、下記宛にメールでご送信ください。  
**提出期限：令和3年11月30日**  
 調査に関するご質問もこちらで承ります。  
 日本がん登録協議会事務局 岡田様 office@jacr.info

問1 回答者情報

都道府県	
所属	
氏名	
E-mail アドレス	

問2 がん登録情報利用申請または提供の有無

申請日が2015年以降の案件についてご回答ください。

貴都道府県に市町村が実施するがん検診の精度管理や事業評価を目的とした地域がん登録情報、あるいは全国がん登録情報（都道府県分）の利用申請はありましたか。

下記のいずれかに○を付けてください。

1. 申請があった（問3にお進みください）
2. 申請はなかった（問6にお進みください）

問3 がん登録情報提供の有無

問2で「1. 申請があった」と回答された申請案件のうち、地域がん登録情報、あるいは全国がん登録情報（都道府県分）の提供を実施しましたか。

下記のいずれかに○を付けてください（申請案件により状況が異なる場合複数回答可）。

1. すでに提供した、または提供準備中である（問4にお進みください）
2. 提供していない（問5にお進みください）

問4 がん登録情報の利用申請と提供に関する情報（がん登録情報を提供済みまたは提供予定の案件）  
 問3で「1. すでに提供した、または提供準備中である」と回答された申請案件に関する情報を教えてください。  
 （1 申請につき1件でご記載ください）

申請情報		提供情報（提供予定を含む）				
申請年月日	申請者名 （所属・役職等）	提供年月日	対象市町村 （権数記載可）	都道府県 がん登録室での 照合の有無*	担当者名 （所属・役職等）	連絡先 （電話番号、 メールアドレス等）
例 2019/5/10	〇〇 （△△市市長）	2019/6/30	△△市	有	×× （△△市健康増進課）	****@XXX.jp
1						
2						
3						
4						
5						
6						

\*申請元から対象市町村のがん検診の対象者または受診者情報を得て、がん登録室でがん登録（罹患）情報を付与して提供した場合は「有」、申請元に対象市町村のすべてのがん登録（罹患）情報を提供した場合は「無」とご回答ください。

問5 がん登録情報の利用申請情報（がん登録情報の提供を実施していない案件）

問3で「2. 提供していない」と回答された申請案件に関する情報を教えてください。

	申請 年月日	申請者名 (所属・役職等)	がん登録情報の 提供をしていない理由*
例	2019/5/10	〇〇 (△△市市長)	表の下の①～③より選択し、②または③の場合はその理由 や内容も記載してください
1			
2			
3			
4			
5			
6			

\*①提供してよいかどうかの決定をまだしていない

②提供してよいかどうかを検討した結果、提供できないことになった

③その他

上記、がん登録情報を提供していない理由については①～③のいずれかでご回答ください。  
また、②の場合は提供できないと判断された理由を、③の場合は具体的な理由の記載をお願いします。

問6 がん登録情報利用に関する申請

相談日が2015年以降の例についてご回答ください。

貴都道府県にがん検診の精度管理や事業評価を目的とした地域がん登録情報、あるいは全国がん登録情報（都道府県分）の利用に関する相談はありましたか。下記のいずれかに○を付けてください。（ただし、問2で利用申請があったと回答した案件は除く）

1. 相談があった（問7にお進みください）
2. 相談はなかった（ここで調査は終了です）

問4 がん登録情報の利用申請と提供に関する情報（がん登録情報を提供済みまたは提供予定の案件）  
 問3で「1. すでに提供した、または提供準備中である」と回答された申請案件に関する情報を教えてください。  
 （1申請につき1件でご記載ください）

	申請情報			提供情報（提供予定を含む）				連絡先 （電話番号、 メールアドレス等）
	申請 年月日	申請者名 （所属・役職等）	提供 年月日	対象市町村 （権数記載可）	都道府県 がん登録室での 照会の有無*	担当者名 （所属・役職等）		
例	2019/5/10	〇〇 （△△市市長）	2019/6/30	△△市	有	×× （△△市健康増進課）		****@XXX.jp
1								
2								
3								
4								
5								
6								

\*申請元から対象市町村のがん検診の対象者または受診者情報を得て、がん登録室でがん登録（罹患者）情報を付与して提供した場合は「有」、申請元に対象市町村のすべてのがん登録（罹患者）情報を提供した場合は「無」とご回答ください。

表 1. がん検診の精度管理を目的としたがん登録データの提供の有無

都道府県名	データ提供の有無	有の場合 データ提供先	データ照合の有無
北海道	無		
青森県	有	階上町	無
	有	青森市	無
	有	青森市	無
	有	黒石市	無
	有	青森県 (20 市町村)	有
岩手県	無		
宮城県	無		
秋田県	有	男鹿市	無
	有	秋田市	無
	有	湯沢市	無
山形県	無		
福島県	無		
茨城県	無		
栃木県	有	宇都宮市	有
	有	小山市	有
	有	大田原市	有
	有	芳賀町	有
	有	那須町	有
	有	栃木県	有
群馬県	無		
埼玉県	無		
千葉県	無		
東京都	有	練馬区	無
	有	杉並区	有
	有	八王子市	有
神奈川県	有	横浜市	有
新潟県	無		
富山県	無		
石川県	有	津幡町	無
福井県	有	福井県 (17 市町)	有
山梨県	無		
長野県	無		
岐阜県	無		

(表1 続き)

都道府県名	データ提供の有無	有の場合 データ提供先	データ照合の有無
静岡県	無		
愛知県	無		
三重県	無		
滋賀県	無		
京都府	無		
大阪府	有	豊中市	無
	有	枚方市	有
兵庫県	無		
奈良県	無		
和歌山県	有	和歌山市	有
鳥取県	無		
島根県	有	島根県 (松江市、大田市、巴南町、 隠岐の島町)	
岡山県	無		
広島県	無		
山口県	無		
徳島県	無		
香川県	無		
愛媛県	無		
高知県	無		
福岡県	無		
佐賀県	無		
長崎県	無		
熊本県	無		
大分県	無		
宮崎県	無		
鹿児島県	無		
沖縄県	無		